

平成 20 年 3 月 19 日

各 位

会 社 名 株式会社コーセーアールイー
代 表 者 代表取締役社長 諸藤 敏一
(コード番号：3246 福岡証券取引所)
問合せ先 取締役管理部長 津田 雅浩
(TEL：092-722-6677)

(訂正) 平成 20 年 1 月期 決算短信 (非連結) の一部訂正について

平成 20 年 3 月 14 日に公表いたしました「平成 20 年 1 月期 決算短信 (非連結)」の一部について下記のとおり訂正いたします。なお訂正箇所には下線を付しております。

記

(訂正箇所 3 ページ)

1. 経営成績

(1) 経営成績に関する分析

① 当事業年度の経営成績

【訂正前】

(中略)

これらの結果、売上高は 5,478,971 千円 (前期比 11.6% 増)、営業利益は 289,377 千円 (前期比 45.7% 減)、経常利益 218,784 千円 (前期比 54.5% 減)、当期純利益 125,116 千円 (前期比 52.0% 減) となりました。売上が減少したことで売上総利益も減少しましたが、販売費及び一般管理費は固定費の占める割合が大きく、経費削減に努めたものの削減幅は小幅に留まり、営業利益を圧迫しました。

【訂正後】

(中略)

これらの結果、売上高は 5,478,971 千円 (前期比 11.6% 増)、営業利益は 289,377 千円 (前期比 45.7% 減)、経常利益 218,784 千円 (前期比 54.5% 減)、当期純利益 125,116 千円 (前期比 52.0% 減) となりました。売上高は増加したものの、売上原価も大幅に増加いたしました。また、販売費及び一般管理費は固定費の経費削減に努めたものの削減幅は小幅にとどまったため、営業利益は減少いたしました。

(訂正箇所 24 ページ)

4. 財務諸表

重要な会計方針

【訂正前】

前事業年度 (自 平成 18 年 2 月 1 日 至 平成 19 年 1 月 31 日)	当事業年度 (自 平成 19 年 2 月 1 日 至 平成 20 年 1 月 31 日)
<p>8. ヘッジ会計の方法</p> <p>(1) ヘッジ会計の方法 金利スワップについて特例処理の要件を充たしておりますので、特例処理を採用しております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段…金利スワップ ヘッジ対象…借入金</p> <p>(3) ヘッジ方針 借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。</p> <p>(4) ヘッジ有効性の方法 金利スワップについて特例処理の要件を充たしておりますので、有効性の評価を省略しております</p>	<p>8. <u>ヘッジ会計の方法</u></p> <p>(1) <u>ヘッジ会計の方法</u> 同 左</p> <p>(2) <u>ヘッジ手段とヘッジ対象</u> 同 左</p> <p>(3) <u>ヘッジ方針</u> 同 左</p> <p>(4) <u>ヘッジ有効性の方法</u> 同 左</p>

【訂正後】

前事業年度 (自 平成 18 年 2 月 1 日 至 平成 19 年 1 月 31 日)	当事業年度 (自 平成 19 年 2 月 1 日 至 平成 20 年 1 月 31 日)
<p>8. ヘッジ会計の方法</p> <p>(1) ヘッジ会計の方法 金利スワップについて特例処理の要件を充たしておりますので、特例処理を採用しております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段…金利スワップ ヘッジ対象…借入金</p> <p>(3) ヘッジ方針 借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。</p> <p>(4) ヘッジ有効性の方法 金利スワップについて特例処理の要件を充たしておりますので、有効性の評価を省略しております</p>	<p>8. _____</p>

以上